

巻末資料

研究成果の発表

本研究を基に行われた論文発表等は、次のとおりである（令和2年1月現在）。

1 論文発表

- 嶋根卓也・高橋哲・竹下賀子・小林美智子・高岸百合子・大宮宗一郎・近藤あゆみ・高野洋一・山木麻由子・松本俊彦（2019）. 覚せい剤事犯者における薬物依存の重症度と再犯との関連性：刑事施設への入所回数からみた再犯 日本アルコール・薬物医学会雑誌, 54 (5), 211-221.
- 谷真如・高野洋一・高宮英輔・嶋根卓也（2020）. 覚せい剤取締法違反により刑事施設に入所した刑の一部執行猶予者の心理・社会的特徴 犯罪心理学研究, 57 (2), 1-17.

2 学会発表

- Mayuko Yamaki, Yoshiko Takeshita, Masaru Takahashi, Ayumi Kondo, Takuya Shimane(2018). Prevalence and correlates of Adverse Childhood Experiences (ACEs) among methamphetamine users in Japanese prison. The 19th Congress of the International Society for Biomedical Research on Alcoholism, Kyoto, 2018.9.11.
- Takuya Shimane, Masayuki Tani, Mayuko Yamaki, Michiko Kobayashi, Ayumi Kondo, Masaru Takahashi(2018). Methamphetamine users in Japanese prisons: Comorbid hazardous alcohol consumption. The 19th Congress of the International Society for Biomedical Research on Alcoholism, Kyoto, 2018.9.12.
- 高橋哲・山木麻由子（2018）. 薬物事犯者における小児期の逆境体験が自殺・自傷に与える影響の検討 日本犯罪心理学会第56回大会, 奈良, 2018.12.8.
- 小林美智子（2019）. (シンポジウム) 日本の覚せい剤事犯の動向と覚せい剤事犯者調査の概要 2019年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 札幌, 2019.10.5.
- 嶋根卓也（2019）. (シンポジウム) 覚せい剤事犯者の入所度数と薬物依存との関連 2019年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 札幌, 2019.10.5.
- 大宮宗一郎（2019）. (シンポジウム) 信頼感と薬物依存の重症度の視点からの分析 2019年

度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会，札幌，2019.10.5.

近藤あゆみ（2019）.（シンポジウム）全国調査からみた覚せい剤事犯者の性差 2019年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会，札幌，2019.10.5.

高岸百合子（2019）.（シンポジウム）覚せい剤事犯者における被支援経験と各種支援団体のイメージ 2019年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会，札幌，2019.10.5.

喜多村真紀・嶋根卓也・小林美智子・近藤あゆみ・伴恵理子・大宮宗一郎・高岸百合子・松本俊彦（2019）. 覚せい剤の早期使用と小児期逆境体験との関連：全国の刑務所における「薬物事犯者に関する研究」より 2019年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会，札幌，2019.10.5.

3 その他刊行物

国立精神・神経医療研究センター／法務総合研究所（2019）. 覚せい剤事犯者の理解とサポート2018